

# 記者室より

## 暑中休暇

愛讀者諸君の中の多数の方は愉快に暑中休暇を迎へられる事と思ひます。諸君が待ちに待った休暇なので、愉快に少しの無駄のないやうにこの休暇を送つて下さい。

海へ山へ、身體を鍛るのもいゝでせう。動物の採集も面白いでせう。然し避暑だとか旅行だとか、殊更に金錢を遣つてわざ／＼遠方へ出掛ける必要はありません。暑い炎天で働いて身體中の汗を流してから、濃い緑蔭で一休みした心持は、大金を投じた避暑旅行に優る事幾々です。思ひ切つて暑いのも愉快なものです。暑いといつて悶たれないで、充分に夏の暑さ涼しさを味つて下さい。

本號は充分に夏の氣分に満ち／＼たものを作りましたから本號でも充分に夏の氣分を味つて下さい。「あれ、あれが欲しいの」はまだ他の少年雑誌では見る事が出来ない程高尚なものです。が佛蘭西では小學校の讀本に擧げてあります。もし解らない處がありま

したら、年上の方によく訊いて諸君も早くあの位な時はすらく／＼解るやうになつて下さい。「月見草咲く頃」は必ず諸君に歡迎されると信じてをります。「居留地の少年」もありふれた少年小説とは趣を異にしてをる積りです。それでは、休暇中身體も鍛へ勉強もして、来る九月には元氣よく新學期を迎へて下さい。(誠)

## いろいろなこと

また蝉の頃になりました。蝉はほんとに可愛い蟲です。朝涼の庭の楓などで啼いてゐるのを聞くと、私には、小學校時代の夏休みの樂さがひしく懐しく思ひ出されます。

また夕立の頃になりました。急に蒸暑くなつたと思ふと眞黒な雲が空一ぱいに漲つて忽ちに降出す夕立、一しきり降るかと思ふ間に直に止んで美しい虹が立つ。夕立はさつぱりして男らしいものです。

また雷の頃になりました。ジン／＼響いて鳴立てる雷も夏になくてならないものです。丁度中學の四年の夏、三河へ旅行して長篠の古戰場を見物してゐる最中大雷雨に逢つて、蝙蝠傘を握りしめて芋畑の中を駆廻つた事がありました。雷も小氣味いゝものです。

また若い者の旅行の頃になりました。この大雷雨に逢つた時、橋を渡らふとして橋錢が二厘だと云はれて面喰つた事がありました。兎に角旅は面白いものです。今年も本號の編輯を終へたら、何處かへ出掛けたいと思つてゐます。(順風)

## 廣い道に狭い道

本號に木暮氏の山登りの話が出たので思ひ出したのですが、山の中で道に迷つた時に若し幅一間以上もある様な立派な道と、確に切開いてもない僅か三尺位しかない小道との二筋道に出た場合には、悪い道と思つても必ず其の狭い道の方を取らねばなりません。

と言ふのは一間以上も幅のある方は、山火事を防ぐ爲に作られた防火線とでも言ふべきもので、小さな道の方が却つて人がよく通る道なので、之を行つた方が早く人里へ出られるのです。

良い道より悪い道の方が好い等と言ふと諸君は變に思はれるかも知れないが、之は全く本當の事なのです。現に私も、中學時代に山へ登つた時、此の事を知らないで大失敗をやり、後で先輩から此の話を聞いて成程と思つた事がありました。(海人)

# 記者室より

◆來年の用意は是非今年中にして下さい。(静波)

## ◆展覽會々場で

◆私は先日一寸歸郷した序に、折柄開催中だった静岡縣師範學校附屬小學校の成績品展覽會を観に行きました。

◆その成績品といふのは、暑中休暇中の製作を展覽したもの、繪畫や習字や、手工品、日記の類が數多く出品されておりました。

◆その中で、上級の生徒の製作品が集めてある室に入りますと、壁一面に懸けてある繪畫の中に、本誌の挿畫が實に巧みに模寫されてあるのが數多くありましたし、其他、六月號の口繪が油畫で模寫されていたり、ボール紙で美事に作つてあつた軍艦の艦に、本誌の社旗がそのまま美しく懸つていたりしたのを見た時には、私は非常に愉快でした。

◆いま一つ、その室へ觀覽に来てゐた他の學校の生徒の胸に、やはり本誌の社旗が挿されてゐたのを見たのは、これも非常に愉快でした。その少年が、同伴の友人に一々詳しく其等の繪の説明をしてゐたのを傍で聞きながら、私は、心の裡でその少年にもまた凡ての本誌愛讀者諸君に深く感謝せずにはをられませんでした。

◆私達が編輯する本誌が、かく満天下の少年諸君の好伴侶となる事を思ひますれば、一層

私達は、誌面の改良に全力を傾けて、日頃から本誌を愛讀される少年諸君に感謝しねばなりません。(順風)

## ◆馳け廻り給へ

◆古い言葉ながら天高く馬肥ゆると言ふ秋は恰度今です。諸君！讀書に勤むるも勿論忘るべからざるの事ですが、此の好季節を無意義ならしめない様、野に山に、校庭に公園にウンと馳け廻つてくれ給へ。

◆そして眞の海國男兒らしい立派で丈夫な身體を鍛へ上げて、ソロ／＼やつて來るあの冬の寒氣に負けない様——否、之を征服するの元氣を身體中一杯に漲らせてくれ給へ。

◆次に本誌が八月號以來毎號連載して愛讀者諸君から多大の好評を博して居る復習の仕方は其後も引續いて載せるつもりで居ました所、今度突然筆者たる加藤先生から「少し都合があるので當分執筆を見合せさせて呉れ」との御申越がありましたので眞に残念ながら暫くの間休載することに致しました。

◆何れ又その中には再び連載するの機も参りませうが、本誌には其の代りとして早稻田中學講師藤谷先生の「勉強の秘訣」を掲載致しました。多年斯界に在る少年教育の爲に盡すられた同先生の手になる此の文字に依て諸君の得る所は定めて多大なものだらうと、信じて居ります。(海人)

## ◆紅葉

◆眞青な楓が、何時の間にか眞紅になつて、世間の人たちから持て囃されると、間もなく散つてしまひます。

◆散つた紅葉の今迄木の枝について居た所を見て御覽なさい、一つ點の様なものが見えます。

◆春から秋までに青い葉が、セツセと、地中から吸つた養分はドシ／＼木の成長につかはれてその中に落葉の時が來ます。

◆來年になれば、又芽を出して青い葉となつて木を養はなくてはなりません。

◆紅葉の落ちた後の小さな點の様なものは、その中に來年出る葉の用意が出來てゐるので

◆大正八年もあと一二月で暮れてしまひます。大正九年になれば私達も新しい芽を出さねばなりません。

◆皆様、木でも今年仕事をすませる時には、チャント來年の用意をしてゐます。皆様も木に負けてはなりません。

# 記者室より

## ◆一年を回顧して

◇又ぞろ諸君に向て同じ言葉を上上げる様ですが、全く月日の経つのは早いものです。私達の様に毎月／＼次から次へと追はれて居る者には殊に其を深く感じます。大正八年の新年號が出来上つたのはつひ過日のやうに思つて居るのに、もう今年のお仕舞の十二月號を拵へて、大正九年の新年號の準備をして居るのですからね。

◇此の一年を回顧して第一に感ずるのは、本誌が非常な發展をした事です。五月號から印刷所が變るとともに用紙をすつと上等なものに變へたのを始めとし、爾後引續いて口給寫眞版の改良、挿圖の増加、記事の精選、編輯方針の樹立等出来得る限り誌面の改善に努力しました結果、近來驚くべき程、讀者諸君の数が殖えまして、營業部でも毎月目を丸くして居るやうな始末です。

◇斯の如き勢を示すに至りましたのは、社員一同が奮勵の結果にも因りませうが、これ一に満天下の愛讀者諸君が御援助の賜と深く感謝申上げて居る次第であります。

◇來年も同じく諸君の爲めの雜誌として本誌を益々發展させるべく、私達一同も更に以上の努力をする覚悟で御座いますが、どうぞ諸君も本誌に對して相變らず一否、今年より以上の御後援を賜ふ様、今からお願ひ申上げて置きます。(誠)

## ◆師走氣分

◇今年もいよいよお終ひの月になりました。大通りの商店では旗幟をたて、暮の賣出しの景氣をつける。お歳暮の荷を提げた人がとつとと急ぐ。掛取らしい小僧さんが走る。餅搗の音がする。犬が吠える。風が吹く……何から何まで火の付くやうに忙がしい。

◇こんな日が程なくやつて來ます。でも、この師走氣分とでもいふのでせうか、遠だしい落付のない忙しい裡にも、新しい年が迫つてゐる所爲か、どことなく緊張した氣持よさがあるではありませんか。私は何となくこの師走氣分が好きです。

◇全くこの年の暮の忙しさも、大晦日といふ締括りを境に伸々するお正月が控えてゐるので、随分と都合がありますね。さうく私達も明日からは直に、新年號の編輯に取掛つて、今年中はうんと骨身に堪へる程の忙しい眼をして、お正月には諸君の愉快さうな元氣に充ち満ちた顔を見るのを樂しむ事にしませう。(順風)

## ◆苦い藥と怠業

◇去年猛烈な勢で世界中を荒し廻つた流行性感冒と同じものが如何だか知りませんが今年も又此の冬空近くになつて、感冒が流行り出しました。

◇私も如何した機みか、此の厄介な先生に取捕まつたと見えて、頃日來お醫者様の苦い藥を吞まされた上其の命令に従つて柔順しくして居なければならぬと言ふ随分いやな目に會ひました。

◇其の爲に眞に申譯のない次第ですが、雜誌の方へも飛んだ大敵をしてしまひ、毎月出さねばならぬ繪物語も今月は書かなかつた様な譯で、諸君に對しては全くお詫びの申し様もなく、獨りで恐縮して居る次第です。

◇然し身體も追々に快くなつて來ますから、來月號にはウンと馬力をかけて大にペンを走らせて、一つ諸君をアツと言はせる心算で目下盛に腕に板を掛けて居ますから、其に免じて今月の怠業は水に流して御容赦の程をお願ひ致します。(静波)

## ◆私は忙しい

◇年の暮は忙しい。本當の年末は未だいけれども、雜誌の上では大正八年が終るのだ。だから私は忙しい。雜誌のお正月を迎へる爲に活動せねばならぬ。そこで今月はこれで失敬。(海人)

# 記者室より

## ◆今が大切な時

◆御承知のやうに今年には流行性感冒が流行を極めた故か其他の病氣まで、勢を逞うして例年になく死亡者の数が多い様でした。◆私の知人の中にも随分其の不幸を見た人が澤山ありましたが、現に本誌に多大の御厚意をお寄せ下さつて居る日高海軍大佐の御令息謹一君も去る二月十七日敢へなくも此の世を去つてしまわれました。

◆大佐の御痛心もさてこそとお察し致されまので、此際故令息の靈に本誌の多數諸君から幼にして世を去られた令息追悼の言葉を戴いて、一つにまとめて記者の手から、靈前に捧げたいと思つてをります。(誠)

## ◆四月が来た

◆四月が来ました。櫻の咲く四月が来ました。櫻の花は本當に勇ましい男性的な花です。爛漫と咲き誇つた彼の花のトンネルの下を流る時、風も無いのにホロ／＼と散る彼の花の雨を眺めた時、私達は櫻咲く國に生

れた幸福を心から感謝しないでは居られせん。

◆四月が来ました。運動のシーズンがやって来ました。隅田川の上流でボートレースも始まります。一高のグラウンドに聯合試合が行はれて春期野球戦の幕がソロ／＼開かれます。野球好きの記者はジツとして居られなくなりません。

◆四月が来ました。野山は冬の衣を脱いで美しい春の粧ハを激します。鳥は長閑に囀ります。霞は悠に棚引きます。總てのものの上に春が訪れて来ます。諸君等が頭痛の種の學年試験や大難關として苦み抜く入學試験なども漸く済んで、春も將に開になりす。さア、諸君、其の時春氣に遊べる様に試験まではウンと勉強しやうじやありませんか。(静波)

## ◆没書籠の話

◆僕は没書籠である。何時も編輯局の隅に控えて沈黙を極めこんで居るのも退屈だから、今日は少し獨言を言つて見やう。

◆僕は毎月雑誌が出る時暫くの間は毎日毎日随分澤山の諸君の投書を吞込んでゐる。僕に吞込まれた投書は没書といふので、吞まれたが最後決して雑誌へは出ないさうだ。思へばお氣の毒な投書だ。

◆だから、僕に吞まれる投書は一體どんなの

だかをもつと教へて上やう。先づ規定に反して寸法の大きい紙や、薄い紙に書いたもの、汚なく亂暴な字で認められたもの、人に教はつたり人のを見て眞似した投書、まあこんなのが一番多い。

◆規定の数を無視して、同じ種類の投書を三つも四つも、甚しいのになると十位も出ず人があるが、これ等も皆な僕に吞まれる連中である。

◆では、何うしたら一體僕に吞まれませんむ即ち入選になるかといふに、先づ第一に本當に自分で作つた作品を、次の頁に出てる投稿規定に寸分の間違ひないやうに、丁寧な楷書で正しく書いて見たまへ、入選正に擬ひなしと、僕は小聲で教へて上げやう。

◆それから：：あ、足音がした。誰か来たらしい。沈黙。(順風)

## ◆終に臨んで

◆此の「記者室より」も一昨大正七年の十一月號以來刊號缺さず載せて参りましたが、餘り長く続けましたし、且つ編輯上の都合で今月限り此の欄を廢めることに致しました。

◆最後に當りまして何か申し上げねばならぬのですが、もう頁に餘白が御座いませぬから此の御傍だけでペンを擱きます。終に臨んで愛讀者諸君の御健康を祈ります。

(海人)



後の輯編

本誌の編輯にはかなり充分な力をそよいだつもりですから、記者はそれで満足です。諸君いかがでせう。御遠慮ない批評を皆さんから寄せて戴きたいと存じます。

本誌に掲げた黄河田氏の遺難話はいかゞでせう。本誌獲得のもので、必ず諸君の好評を博す事と記者は切に信じてをります。本誌に掲げたのはまだほんの發端で、來月號には帝國軍艦の出動まである壯快極まる遺難談が掲載されますからお待ち下さい。殊に黄河田氏は且つて本誌の愛讀者であつて、後船員になられた方といふ事を御記憶下さい。

本誌の愛讀者諸君には記者は絶えずお眼にかゝる機会をなるべく多く得たいと思ひますが、つい忙しいのに紛れて、思ふやうにお眼にかゝれないのが残念です。それでも東京の諸君には、幸ひに折々お會ひする事が無いでもありませんが、地方の諸君にはさういふ機會は殆んどないといつていゝ位です。

地方の諸君の中、学校の修學旅行などで、東京においでになる折がありましたら、例卒その日程と東京の宿泊旅館をお知らせ下さいませんが、暇が作れさへすれば夜分にもお迷惑にならない程度で宿屋へお訪ねして、一寸でもお眼にかゝる事が出来れば大變記者はうれしいと思ひます。お差支へない方はさういふ機會がありましたら、何卒ヘガキでたり前もつてお知らせ下さい。

度々小社旗の事を申し上げますが、あれは新たに本誌愛讀者となられた方だけに贈呈するので、一度お贈りした方には特別な事情のない限り贈呈いたしません。なほ毎月非常な額を贈呈致しますので、引換證の規定に反したお申込は残念ながらお断り致します。

諸君から記者宛に下さいます御便りはいつも嬉しく拜見致します。なるべくその都度御返事を差上げる心組でをります。何分多忙なために、つひ遅れ勝ちになつたり、また時には心ならずも失禮を致すやうな事がありはしまいかと案じられます。その邊は何卒悪しからず御免下さい。(順風)

愛讀者諸君、いつも御禮儀のことゝ存じます。記者も相變らず元氣で働いてをりますから何卒御安心下さい。いよく秋が深くなりました。散歩に、運動に、遠足に、諸君の跳廻る天地が野に山に廣いことを羨みます。

今月は美術の月とでも申しませうか、繪の展覽會が方々で催されてゐます。本誌の表紙は、例年に倣つて、特にこの月に相應しいものを選びました。何卒御觀賞下さい。

繪の展覽會で、社に遠くない上野公園は觀賞の人々で毎日賑つてゐるといふ噂は聞きますが、本誌の仕事を終る迄、記者には行つて觀る暇ありませんでした。その代り



編輯の後

したる御座ります。

今月は十月、もう雑誌の上では今年もあと二月しかありません。

今年に社内の御代りや何かで、思ひのまゝに諸君の御満足を得る事が或ひは出来なかつた事と、恐縮致してをります。然しそんな事にも拘らず諸君の御力添への大きなことは、社内皆で常に感謝してをる次第でございます。

で、その御力添へに酬ゆるために、もうそろそろ来年度の誌面改善の用意を始めてをります。

何か誌面の記事其他の點に就いて、お心付きのことや、御希望のことが御座いましたなら、御遠慮なく手紙なりハガキなりで、御通知下さいませ。私共はどんなに喜ぶか知れませぬ。

近頃編輯局ですばらしい景氣のものがあ

ります。それは投書で、この三月ばかりは投書の數の殖えだしたと全く驚くばかりでこれでは投書の分類欄も、それから一つ、何とかいふ籠の方も、急いで新しい大きなのを作らなくてはならないといふ話を持つてゐる程で、景氣のいふことすばらしいも

のです。その代りその多數の投書の選抜の骨の折れる事またすばらしいものですが、然しこの方の骨折は私達け事々望んでいたい骨折ですから、少しも苦しくはありません。もつともつと私共を苦しめて下さいませ。たゞ一つ規定以外の用紙や書き方は何卒なまらないうちに、投書なさる方は次の頁の規定を充分に御讀み下さいませやう御願ひ申しあげます。

前號で發表致しました本誌の賞牌最初の贈呈は、目出度く前月中に終了いたしました。是は賞牌は引續いて今後は讀者文藝欄の賞品として毎月贈呈いたしますから、何卒左様御承知下さいませ。賞牌は本誌の諏訪畫伯の意匠になつたもので、ほんとに自慢してもいふと美しいものですから、必ず諸君の好評を博すに違ひない事と私に信じてをります。

そろそろ夜が長くなります。今頃はさぞ方々の明るい灯の下で本誌が繰ひろげられてゐるだらうと思ふと大變愉快です。(順風)

愛讀者諸君、御連者ですか。勿論、どなたも元氣よくびん／＼してゐらつしやることと存じます。記者も勿論丈夫でございます。折角毎月諸君がお待ちかね下さる本誌の編輯といふ大切な仕事を控へては、うつかり病氣なぞしては大變ですから。御飯もろんと食べ仕事もろんと忙しくやつてをります。

さて、前々月號から諸君にお願ひしてをります諸君の一番親しいお友達を一人、諸君同様に本誌愛讀者におすゝめ下さいますやうにの件は、早速お聞き下さいませ、毎月その嬉しい御報知のハガキが本社へ参りますことをこゝに厚く御願ひ申し上げます。なほ今月も何卒第二の新しい愛讀者御紹介を御願ひ致